

「グローバルアウトリーチプログラム」とは何か

—桜美林大学における新しい語学研修プログラムの試み—

What is *Global Outreach Program* ?:

An Attempt to Create a New Type of Study Abroad Language Programs at J.F. Oberlin University

桜美林大学学生センター国際学生支援課 野村 文・高橋 祐子

NOMURA Aya / TAKAHASHI Yuko (Office of International Programs,
J. F. Oberlin University)

キーワード：語学力、主体性、地域社会参加、アウトリーチ、海外留学

はじめに

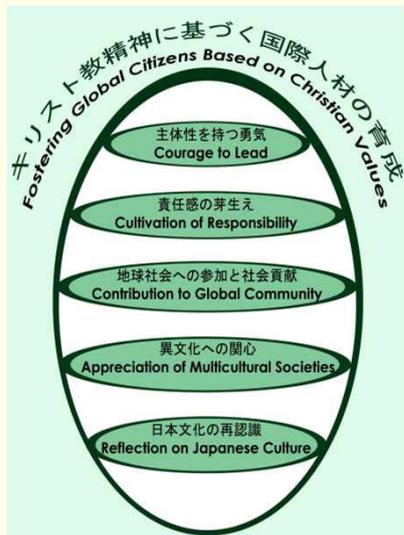
桜美林大学（以下「本学」と表記）の留学プログラムは、留学期間によって大きく3つに分けられますが、以下においては、「グローバルアウトリーチプログラム」という、4カ月間の中期型の語学留学プログラムについて紹介します。このプログラムは、本学リベラルアーツ学群（以下「LA学群」と表記）で2007年度より始められ、2012年度からは留学中のカリキュラムに地域奉仕活動を組み込み、新しい内容となりました（英語圏のみ）。本稿では、リベラルアーツ学群の事例紹介が中心となりますが、2013年度秋学期より始動した、ビジネスマネジメント学群（以下「BM学群」と表記）の職業体験を組み合わせたグローバルアウトリーチプログラムについても、同様の留学プログラムとして、その内容を紹介します。

1. 建学の精神とモットーの実践

グローバルアウトリーチプログラム（Global Outreach Program）とは？

冒頭で述べた通り、グローバルアウトリーチプログラムとは、本学 LA学群と、BM学群の学生を対象に実施されている留学プログラムです。このプログラムに参加する学生は、留学前後の教室内学習に加え、海外での語学学習、生活体験、地域奉仕活動（本プログラムでは「コミュニティアウトリーチ」と呼ぶ）、職業体験など、多彩な学習と活動に取り組みます。まずは、学生が多様な世界を知り、地元の人々と交流することで視野を広げ、自分とより深く向き合い、主体的に課題に取り組む意思を醸成すること。そのうえで、自分の夢の実現に向かって学生自らが歩むことを支援する。これらが、グローバルアウトリーチプログラムの主たる目的です。本プログラムは、以下の図の通り、桜美林学園の建学の精神である「キリスト教精神に基づく国際的人材

の育成」に基づいて、その内容が構成されており、学園のモットーとなる「学びて人に仕える（学而事人）」を実践する意味合いも込められています。



主体性を持つ勇氣
(Courage to Lead)
責任感の芽生え
(Cultivation of Responsibility)
地球社会への参加と社会貢献
(Contribution to Global Community)
異文化への関心
(Appreciation of Multicultural Societies)
日本文化の再認識
(Reflection on Japanese Culture)

※上記の図は、本学の建学の精神であるキリスト教精神に基づいた国際的人材を育成するために、すべての留学プログラムにおいて必要とする目標を段階別に分けたものです。上位の段階が成熟度や発達度を示すものではありません。

(図1)

2. 学群の特色を活かしたプログラムの展開

グローバルアウトリーチプログラムは、LA学群、BM学群それぞれの教育目的に沿った学びを用意している点に特徴があり、各学群の教育課程の中に全面的に組み込まれています。

	LA学群	BM学群
内容	語学学習＋文化体験、 コミュニティアウトリーチ (地域奉仕活動、最低15時間) ※英語圏のみ	語学学習(一般英語＋ビジネス英語)、コミュニティアウトリーチ、 インターンシップ (職業体験)
コンセプト	大学生活の早い段階で留学し、国際性や柔軟性を身に付ける。	海外のビジネスの現場で国際的なビジネスセンスを養う。
留学地域	アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、中国、韓国 (計20校 内:英語圏17校)	アメリカ(計2校)
留学時期	1年次秋学期または2年次春学期	2年次秋学期または3年次春学期
単位	最大20単位を認定(自由選択の単位。必修の外国語科目8単位の履修を免除)	最大20単位修得可能(一部専攻科目の単位)
プログラム構成	事前学習(12週)⇒留学(約16週間)⇒事後学習(2日程度)	事前学習(15週)⇒留学(一般英語8週間＋ビジネス英語4週間＋職業体験3-4週間:計約16週間)⇒事後学習(2日程度)

2014年4月現在

(図2)

<リベラルアーツ学群>

「幅広い知識と深い専門性を追求する」LA学群において、本プログラムは、初年次教育を兼ねた留学プログラムとして、学生に提供しています。図2にあるように、留学時期をあえて大学生活の早い段階に設定し、主たる専攻分野の決定となるメジャー選択(2年次秋学期)を前に学習意欲の向上や、学ぶ分野を模索するための準備期間

に充てています（参照：参考付表「LA学群－留学をした場合の履修のフロー（例）」）。このような趣旨から、本プログラムにおいては、海外での学習と生活体験を通して、2年次秋学期の「メジャー選択に繋がる学びへの積極的な姿勢を醸成し、将来の目標実現に向かって歩む知的・精神的礎を築くこと」を第一の目的とし、さらには、海外で地域奉仕活動等に参加することにより、地域社会レベルでの異文化交流を実体験し、社会を見る新たな視点と「隣人愛」の精神を養うことを目指しています。

<ビジネスマネジメント学群>

本学のBM学群では、「国際社会に必要なビジネス感覚を養い、広範な知識から発想し、意思決定の行える、新しい経営マインドを備えた人材の育成」を目標として、「職業に直接結びつく」教育を行っています。留学中のカリキュラムには、8週間の一般英語に加え、4週間のビジネス英語の学習を組み入れています（図2）。その後、学生たちは3～4週間のインターンシップ（職業体験）に参加し、学んだ英語を「仕事」の現場で活用し、国際的なビジネス感覚を磨くことができます。また、本プログラムの修了後は、学群の専攻科目で国内外のビジネスについて学習を重ね、卒業時には、社会から必要とされる語学力とビジネスセンスを持つ学生となることが期待されています（参照：参考付表「BM学群－留学をした場合の履修のフロー（例）」）。

3. 語学学習に留まらない、将来へ繋がる学びと経験

グローバルアウトリーチプログラムの次なる特徴としては、留学前、留学中、留学後、それぞれの段階に適合した学びの場を用意し、内容のさらなる充実を図っていることが挙げられます。いずれの段階の学習も、学生の参加および履修がプログラムを修了するための必須条件となっています。

（1）事前学習

まずは、事前学習全体を通して、学生に以下の目標を提示し、これらの目標の達成に向けて、自らが具体的に取り組む姿勢を身につけられるように指導しています。

- 1) 語学力を向上させる。また、語学が一つの重要な道具であることを実感する。
- 2) 異なる文化の中で生活することで、自らの国や自分自身をも理解する。
- 3) いかなる状況に置かれても、それを乗り越えていく柔軟性やコミュニケーション力を身に付ける。

（図3）

ここでも各学群の目的に沿いつつ、学生の年次も考慮しながら、独自のプログラム企画を実践しています。

<リベラルアーツ学群>

LA学群の事前学習では、カルチャーショックやストレスへの対処法、滞在生活におけるトラブルシューティング、危機管理の処方、文化の違いやステレオタイプに対する適切な感覚、自己分析の方法、母国の歴史・文化の理解といった、異文化を経験するにあたり有用な知識等の教授は無論のこと、プログラム担当教員が専門とする学問

領域（日本文学、歴史学、英米文学、コミュニケーション学等）の講義を行うことで、専門的な学びへの興味も促しています。その他にも事前学習では、実践的な会話練習やグループワークの手法を用いて、自身の考えや興味を主体的に明確化し、他者に説明できる機会を学生に提供しています。また、いわゆる「学生目線」からの学びも重要視しており、本プログラムに参加経験のある上級生のピアサポートも実施しています。上級生が自らの留学体験を通して明らかにした学習目標や、留学後に学んでいる専門分野などを後輩に語ることで、プログラム参加学生は、より身近な問題として、留学とその後の学生生活について考えることができます。

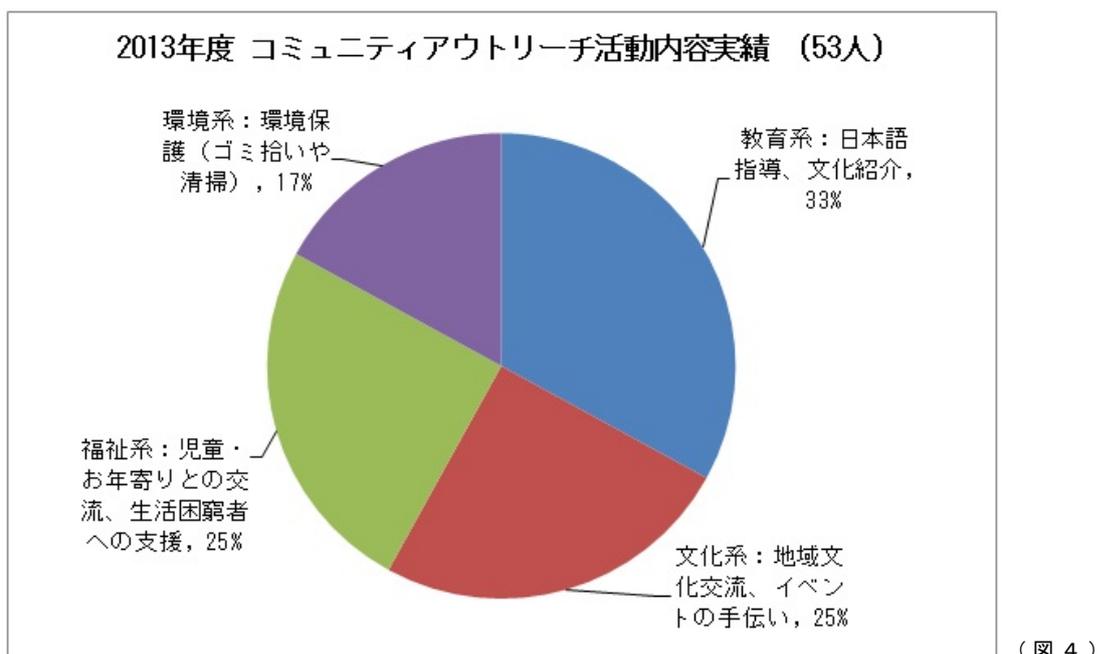
<ビジネスマネジメント学群>

BM学群では、学生は、留学する直前の学期に特別講義を履修します。この授業では、LA学群と同様に、現地での生活、文化の違い、カルチャーショックやストレスへの対応、危機管理などを学ぶとともに、留学中の職業体験を見据えた英語のライティングやリスニング、国際経済やアメリカ合衆国および滞在先となるジョージア州のビジネス環境、職業体験の心構えなどについて、各分野を専門とする教員が講義します。これらの講義は、一般的な留学準備のためだけではなく、留学中に専門性を追求した学びが可能となることを意識して実施されています。

（2）留学中の広義の「学び」

<リベラルアーツ学群> - コミュニティアウトリーチ

いわゆるESLにおける英語学習に加え、学生はコミュニティアウトリーチ（地域奉仕活動）に参加します（以下は、コミュニティアウトリーチを実施している英語圏の留学先について述べます）。英語圏の提携校では各機関の協力を得て、学生は地域社会の必要に応じた活動に取り組みます。大学が所在する地域や季節により、その活動内容は様々ですが、以下の通りに大別できます。事例とともに紹介します。



① 教育系



小学校にて日本紹介



日本人学校にて教員の補助



日本語イマージョンスクールにて教員の補助

その他：日本語学科・コースを擁する大学での日本語会話テーブルの補助・運営など

②文化系



左：カルチャーフェスティバルにて出展をする様子



右：うどん打ち体験イベントを設ける様子



学生の特技を活かして武道レッスンをしている様子

その他：地域マラソン大会の運営補助、地域のイベントにて折り紙レッスンなど

③福祉系



支援が必要な人への炊き出しに参加



支援が必要な人へ寄付された物資の整理

その他：老人ホーム、学童保育施設での手伝いなど

④ 環境系



生態系を重んじるオセアニア地域における環境保護活動の様子

その他：

- ・アメリカ西海岸におけるビーチ清掃
- ・アメリカ南部にて、筏に乗って行う川の清掃
- ・地域の清掃 など

このように、支援を必要としている人への奉仕活動を通して現地の人々と交流し、その国の文化や社会への理解を深めるだけでなく、地域社会や人々が抱えている問題を共に考える機会を、学生たちに提供しています。また、海外における多様な奉仕活動の在り方を知ることで、学生は地域奉仕活動への新しい視点を得ることができるのです。最終的には、留学経験を通して、学生は新たな問題意識を獲得し、LA学群の特徴である多彩な専門分野（人文・社会・自然科学にまたがる34の専攻プログラム）にあらためて向き合ったとき、入学時には想定していなかった分野への関心を生み出すことが可能になります。このようにして、2年次秋学期におけるメジャー（主専攻）の決定にあたり、本プログラムが大きな意味を持つと考えています。

<ビジネスマネジメント学群> - ビジネス英語と職業体験

BM学群の学生は、約8週間の一般英語の学習（ESL）を経た後、約4週間のビジネス英語クラス（一般英語と並行で実施される場合もあり）において、留学中の職業体験や将来に役立つビジネス関連の語学を学びます。なお、ビジネス英語クラスは、各提携校の協力により、本学学生のみを対象とした特別講義となっています。ここでは、履歴書の書き方、お礼や苦情に対応するビジネスメールの書き方、ゲストスピーカーの講義、企業研究の授業等が実施され、一般英語よりレベルの高い内容となっています。これらの語学学習の期間を経た後、学生は現地の企業にて職業体験をします。学生の研修先は、一般英語クラスの成績や個々の適正等を考慮して、本学および現地の協力機関が決定します。これまでの研修先は、ジョージア州政府機関、日系独立行政法人現地事務所、法律事務所、会計事務所、不動産業、コンサルタント、通訳・翻訳業、旅行業、医療法人、ホテル業といった、幅広い業種に渡っています。この職業体験の意義は、研修先である企業・機関の要求に応えるために、学生が与えられた役割に満足せず、主体的に行動していくことが期待されている点にあると言えます。また、国際ビジネスの現状を肌で感じ、学ぶことで、学生が自らの将来像を思い浮かべ、実際に国際社会に貢献していくことへの動機づけを、本プログラムは与えています。

なお、BM学群の学生にも現地でコミュニティアウトリーチが用意され、地域奉仕活動に取り組みます。



医療クリニックにて職業体験

(3) 事後学習：**<リベラルアーツ学群>**

帰国後は、留学体験に関するプレゼンテーション、留学を振り返り将来について考えるグループワークなどを組み入れた事後学習を実施しています。また、2年次秋学期に選択するメジャー（主専攻）を積極的に考える機会として、メジャーの内容を紹介する講座も、この事後学習に含まれています。さらには、入学時に受験した「CASEC」テスト（※1）を学生が再度受験し、自らの英語の習熟度を把握することで、今後の学習計画を立案するための有効な基準を提供しています。最後に、事後学習への参加のほかに、留学に関する報告書の提出を学生全員に義務付けています。

**<ビジネスマネジメント学群>**

帰国後は、プログラムの成果をグループで話し合い、報告します。現地の人々との英語によるコミュニケーション方法、アメリカ文化の認識と日本文化の再認識、インターンシップを通じて学んだ職業意識等を振り返ります。また、英語学習の成果を測るために、学生はTOEIC® -ITP Testを受験します。

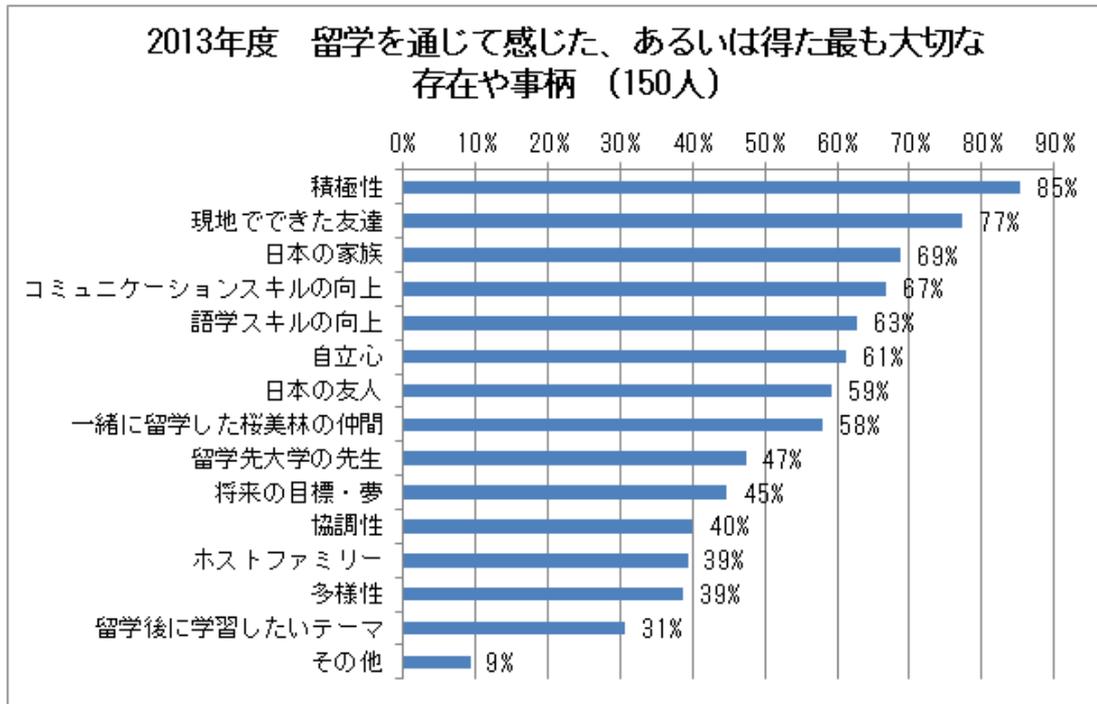
**4. 留学がもたらす学生の成長**

ここでは、LA学群の学生に対して留学後に実施しているアンケート調査の結果を用いながら、留学がもたらす効果について述べます。

※1：本学では、旺文社グループの「教育測定研究所」が提供する「CASEC」テストを使用し、本学の必修科目「英語」のレベル分け及びクラス分けを行っています。

TOEIC® is a registered trademark of Educational Testing Service (ETS). This publication is not endorsed or approved by ETS.

問：「留学を通じて感じた、あるいは得た最も大切な存在や事柄は何ですか？」(複数回答可)

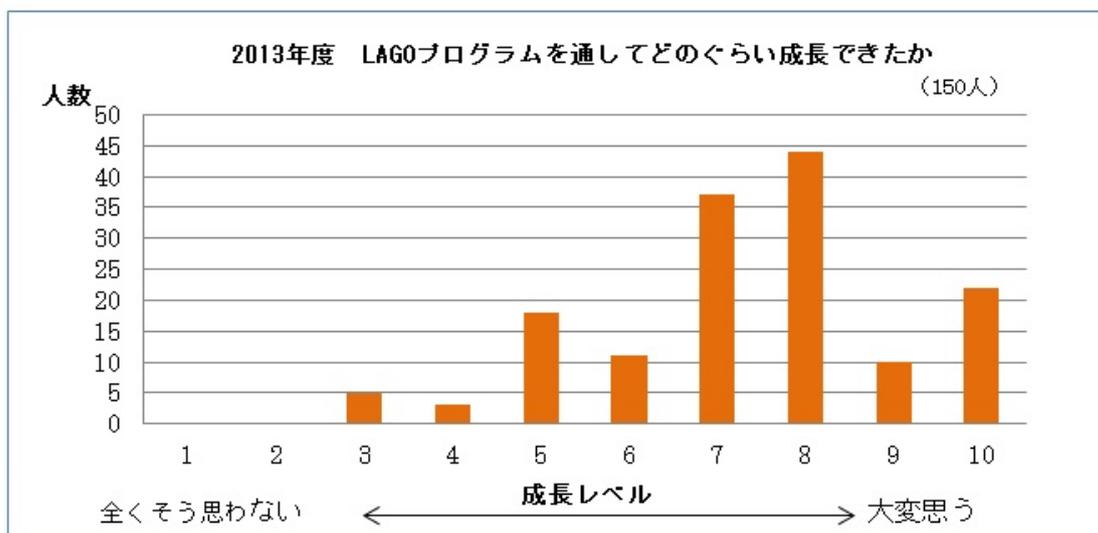


アンケートによれば、「留学を通じて感じた、あるいは得た最も大切な存在や事柄」の第1位は「積極性」、2位は「現地でできた友達」、3位は「日本の家族」でした。これらに続いて、4位は「コミュニケーションスキルの向上」、5位には「語学スキルの向上」が挙がりました。「その他」の項目で記入された回答としては、「感謝の気持ち」「危機管理能力」「ポジティブさ」「日本のよさ」「日本の文化を知ること」などがあります。上位の回答で示される通り、本プログラムが重要視する、主体性を持って行動することの大切さについて、学生自らも感じる事ができたと考えています。

次に、学生自らが自身の成長の度合いを評価する項目について、その結果を紹介します。

問：LAGOプログラムを通じて自分はどのぐらい成長できたと思いますか？

全く成長できていない ←-----→ 大変成長できたと思う
1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----8-----9-----10



※LAGOプログラムは、リベラルアーツ学群グローバルアウトリーチプログラムの略称です。

この自己評価について、そのような評価を下した理由も学生に求めたところ、以下のような回答がありました。

問：上記についてなぜそう思ったのか、具体的に記入してください。

10-9 レベル	<ul style="list-style-type: none"> ● 初めての海外であったが、約4カ月生活して不安はあったがすべてが新しいものばかりで毎日刺激を得ることがたくさんあった。自分を信じることや、その場に応じた適応力がすごく身についたと思うからである。また、留学前にくらべ自分の国について深く考えるようになり、自分の世界観が変わったからである。 ● 自分の考え方が変わりました。自分の意志を持つ、小さいことでくよくよしない、何事もやってみる、気持ちが前向きになりました。確実にハートが強くなったと思います。
-------------	--

8-7 レベル	<ul style="list-style-type: none"> ● 「とりあえずやってみよう」というチャレンジ精神が身についた。また、以前は全くしなかった家の手伝いを積極的にするようになった。自分一人で生活してみたことで、洗濯や掃除がどれだけ大変な仕事であるかわかった。 ● 弱点なども見つけられたのでもっともっと成長していきたい！ ● 私は今まで消極的で自分の思っていることもあまり伝えることをしてこなかったけれど、留学から帰ってきて私自身でも前よりも消極的な所がなおったかなと思って、そしたら帰国して友達に会ったら、「なんか変わったね、いきいきしてる。」と言われて、そこで人に言われて初めて実感したのですが、この留学は間違いなく私自身のことを変えてくれました。
------------	--

レベル「10-9」の回答に見られるように、「自分を信じること」「自分の意志を持つ」といった新たな姿勢を学生が得られた点については、本プログラムが目的としている「主体的に課題に取り組む意思の醸成」に合致しています。また、「自分の国について深く考える」、あるいは、「その場に応じた適応力がすごく身についた」という感想を読むと、留学前に学生に提示している目標を、ある程度は達成できたと考えられます。学生の自己評価の半数弱を占める「レベル8-7」の記述欄をみても、「チャレンジ精神が身についた」、つまり積極的に行動する新たな姿勢を獲得した学生や、自分の「弱点」や自身の変化について冷静に分析する客観性を身につけた学生がいることがわかります。

6-5 レベル	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境はとても良かったし、充実した日々を送ることが出来ましたが、自分自身をもっと頑張れたのではないかと思います、この評価にしました。日本にいた頃よりはずっと真面目に毎日の授業に取り組めましたが、今思い返してみるともっと出来た事があるように思えます。これからの生活に活かしていけるかでまた変わってくると思います。 ● 日本では出来ない経験を多くし、語学も日本にいただけでは身に付けることの出来ない生きた英語を学ぶことが出来た。しかし授業などあまり積極的に発言したり出来なかったこともあったため。
------------	--

4-3 レベル	<ul style="list-style-type: none"> ● 留学で現地の大学生は明確な目標を持っているのを見て自分が未熟だったと分かった。なので、私は成長していないと思う。 ● 英会話を自分が思っていたより、自分のものにできなかった。行く前は行けば話せて聞けるようになると思っていたが、そんなに甘いものではなく自分の積極性や間違えを気にせず堂々としていることが大切なんだと気付いたこと、また海外に行きたいと思ったことを含めて3にした。 ● 自主的な勉強がかなり不足していたと思います。
------------	--

こうした肯定的な自己評価の一方で、「レベル6」以下の評価を付けた者のコメントには、反省を含むものが多く見られました。「もっと頑張れた」「積極的に発言しなかった」といった回答に加えて、自分の未熟さについて言及するコメントがありました。学生自身が設定した目標を達成できなかったことから、こうした低い評価となったことが考えられます。そのうえで、自分に欠けていた点に気づき、具体的な課題を自ら見出そうとする意思も、回答から読み取ることができ、結果として自己理解が深まるとともに、主体性の大切さに気づく学生もいたことが窺えます。

5. 魅力あるプログラム作りへの工夫と今後について

グローバルアウトリーチプログラムの留学中の主たる目的は語学学習ですが、本プログラムが全体として意図する総合的な学びを深めるために、留学先現地の人々と交流する機会を学生に提供しています。具体的には、コミュニティアウトリーチや職業体験が、交流と意識啓発の場として機能しています。その他の学外での学びを促進する工夫として「フレンドシップファミリー」が挙げられます。「フレンドシップファミリー」は、北米の大学で寮に滞在する学生を対象とした、現地家庭との交流プログラムです。学生は地元在住の家族と週末に交流し、一般家庭における日常会話や生活習慣に触れることができます。こうした多彩な企画と内容を実践するうえで、海外提携校や各種関係機関の協力を欠かすことはできません。ここで重要な役割を果たしているのが、桜美林学園アメリカ財団(Obirin Gakuen Foundation of America) (※2)です。同財団は本学の現地組織として、北米地域を対象に、現地提携校や教育機関等との協力体制を築いており、北米地域に留学先大学が多いこともあって、プログラムの充実化に常時努めています。

LA学群のプログラムにおいて、コミュニティアウトリーチを英語圏すべての大学に導入できたのは2013年度秋学期からであり、またBM学群においても同時期に本プログラムが始動していることから、新たなプログラムの効果や成果の検証はまだ始まったばかりです。今後も引き続き、本プログラムに関わる学内外の関係者全員でプログラムの運営に取り組むと同時に、改善のための検証も進めていきたいと考えています。そして何よりも、冒頭1.で紹介した本学のモットーである「学而事人」(学びて人に仕える)の精神に則り、愛を持って隣人に仕えることができる国際的な人材を養い、育てていくことが大きな目標です。

※2：本学の北米における拠点です。当財団はプログラム作り、学生サポートの両面で関わっています。2010年度に発足して以来、複数の大学、NPOと新規に協定を結び、また既存の提携校の中で、新たな留学プログラムの創設に貢献しています。

— 参考 —

● LA 学群 - 留学をした場合の履修のフロー (例)

		1年次		2年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期
秋学期 派遣	留学の流れ	申込み 事前学習	留学 事後学習		
	授業科目等	1年次指定必修科目 英語コアIA, IB		1年次指定必修科目 英語コアIIA, IIB	メジャー登録
	<small>【注】特徴: 1年次の秋学期に通常履修する必修科目の一部は、2年次の春学期に自動的に履修するよう、カリキュラムに組み込まれています。また、英語圏に留学する場合、留学でレベルアップさせた語学力を、帰国後に履修する本プログラム帰国生専用の「英語コア」のクラスで、さらに磨きをかけることができます。</small>				
		1年次		2年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期
春学期 派遣	留学の流れ		申込み 事前学習	留学 事後学習	
	授業科目等	1年次指定必修科目 英語コアIA, IB	1年次指定必修科目 英語コアIIA, IIB		メジャー登録
	<small>【注】特徴: 1年次指定の必修科目の履修を終えてから留学します。英語圏に留学する場合、留学前に2学期間かけて英語学習の下積みをし、留学地で更なる磨きをかけることができます。</small>				

● BM 学群 - 留学をした場合の履修のフロー (例)

		1年次		2年次		3年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
秋学期 派遣	留学の流れ		申込み	事前授業	留学	事後授業	
	授業科目等	1年次指定必修科目 英語コアIA, IB	1年次指定必修科目 英語コアIIA, IIB	専攻科目 ゼミ※①の申込み BMTOEIC*IA	留学後に単位認定: 指定の専攻科目 BMTOEIC*IB (例)	専攻科目 ゼミ BMTOEIC*IIB	専攻科目 ゼミ BMTOEIC*IIA
	<small>【注】特徴: 1年次に専門的な学びの基礎を固めます。2年次に、より専門的な学びに触れた上で、留学を通し、ビジネスの現場を見るチャンスを得ます。留学を終えた3年次からは、具体的に自分の興味に基づき、専門科目を履修し、ゼミなどで自分の専門性を高め、就職活動に臨みます。</small>						
		1年次		2年次		3年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
春学期 派遣	留学の流れ			申込み	事前授業	留学	事後授業
	授業科目等	1年次指定必修科目 英語コアIA, IB	1年次指定必修科目 英語コアIIA, IIB	専攻科目 ゼミ※①の申込み BMTOEIC*IA	専攻科目 ゼミ開始 BMTOEIC*IB	留学後に単位認定: 指定の専攻科目 BMTOEIC*IIB (例)	専攻科目 ゼミ BMTOEIC*IIA
	<small>【注】特徴: 1年次に専門的な学びの基礎を固めた後、2年次にはより詳しく専門分野を学びます。2年間で、自分の興味を具体化させた上で、留学を通してビジネスの現場を見るチャンスを得ます。就職活動が本格化する時期には留学を終えますので、留学で培ったノウハウや知識をすぐに活かすことができます。</small>						

● グローバルアウトリーチプログラム参加者数

実績

リベラルアーツ学群で2007年度よりスタートして以来、数多くの学生が参加しています。2013年度からはビジネスマネジメント学群でもプログラムが始まり、参加者はますます増えています。

	年度	人数
リベラルアーツ学群	2007~2013	1,422
ビジネスマネジメント学群	2013	22

(2014年3月1日現在)